

# よみがえる文化財

15



吉備国際大学教授  
大原 秀之氏

## 美術品修復の現場から

船舶や収集家から作品を 振動、乱気流、機内の温度 備用して展示します。国 湿度や機内気圧の変化は 美術品専用の輸送会社に よって丁寧に梱包されま す。さらに輸送中の振動 外から備用してくるよう な作品にはいわゆる「名 ア・サスペンション」の付 いた大型専用車によって 運ばれ、その車内は温度 ◆厳しく、健康診断 度も一定に保たれます。 ◆厳しく、健康診断 そのため、それらの作 品には必ず多額の保険金 が掛けられています。ち ゃんとした展覧会でもそ の評価額は数十億円とな り、中には評価額合計が 数百万円の展覧会もしば しばあります。大抵の場 合、備用する海外の美術 館から修復家が作品と共に 日本にやってきました。 作品を受け入れる日本側 も修復家を呼ぶます。両 者が共同して作品の健康 診断を行うのです。 昨年、「ウィーン美術 史美術館」から計58点の オランダ絵画が日本にや つてきました。ルーベッ ク、レンブラント、ファ ン・ダイク、プリュゲ ンなど、名目たる名画に 加えてフェルメールの 作品の状態チェックは非 常に厳しいものでした。 ◆名作の波動を美感 展覧会は4月から7月



ゴッホの作品を点検する助手の吉備国際大学大学院 生、今村友紀さん＝国立国際美術館「ゴッホ展」 で2005年5月

このように展覧会の出品品すべてにチェックするのは、非常に神経をすり減らす仕事です。しかし、世界の名作を目前に、しかも手に取りながら彼らから受ける心地よい波動は修復家冥利に尽きるものです。

◆共通する「品の良さ」 今年になってオランダの美術館から備用して開 催された「ゴッホ展」で も、日本側を代表して作 品の「主眼点」をさせて いただきましたが、ルーベンスやレンブラント、フェルメールとはまたひと味違った波動をゴッホ 作品は帯びていました。 私は美術史学者ではありませんのであまり理論的には作品を見ません。しかし、いろいろな展覧会に立ちあがった時に立ち向う素晴らしい作品からは、必ず何とも言えぬ「品の良さ」を感じ取ることが 歴々とわかっています。

# 神経使う名画の「主治医」

作品は「ウィーン美術史 まで東京で開催され、再 美術展」の目玉作品あ び梱包輸送された後、7 月、この絵だけを見られた ため、ウィーンを訪れる入 催されましたが、その期 間中、東京で一回、神戸 まで二回と毎回ウィーンか



フェルメールの作品を点検する筆者（左）＝東京都美術館「栄光の オランダ・フランドル絵画展」で2004年4月



展覧会中に傷ついた額を応急処置する筆者

いにも6月の作品備用 中、何一つ状態の変化は 起こらず、無事ウィーン に戻って行きました。

（毎週土曜日に掲載予定）

きび 出張で 自宅を 訪問ほど さらさら出張で家を 訪れたのは女性で、 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。

談話 出張で 自宅を 訪問ほど さらさら出張で家を 訪れたのは女性で、 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。

「お嬢様」 出張で 自宅を 訪問ほど さらさら出張で家を 訪れたのは女性で、 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。 多分、お嬢様を連れて 来たのだと推測した。



【佐藤隆一】